

信頼の友がいる。 安心の場がある。

「ここで学べることにすごく幸せを感じます。どうしてだろうと考えた時、それは先生方が一人一人のことを大切にしてくださっているからだ気づきました。質問するということに恥を覚えてしまっている日本人の私たちに、課題の内容の確認をしてくださったり、一人一人に話しかけ気兼ねなく質問できる雰囲気を作ってくださったり、安心感が本当に大きくて、もっと頑張りたいと思ってしまいます。そして何より私はこのクラスメイトのみんなが大好きです。信頼できるみんなとだからこそ私は頑張っています。このクラスのみんなとでなければ、私はこんなハイレベルな授業に参加することも、成長することもできていないと思います。みんながいるから私があります。みんなが支えてくれるから、何か一歩でも進歩したいと思えます。」(グローバルクラス高3生 辰巳 碧さん; デイビス研修の日記より)

2022年3月にグローバルクラスの1・2年生が、コロナ禍のためにこの2年間できなかったカリフォルニア大学のデイビス校での1ヵ月にわたる研修を、ようやくして実現することができました。参加の皆さんがデイビスの日々の濃密な豊かさを、深い感動をもって日記に記しています。私はその日々の記録を読ませてもらって、学びが失ってはいけない原点、初心をあらためて教えられました。皆が齊しく「学びが楽しい」と書いているのを読んで、考えてみればそこにこそ学ぶことの原点があるはずなのに、いつのまにか重い荷物を背負って歩むようなものと化してしまっている現実のなかに、自らを追いやっている私たち。「学び」を、内からも外からも変質・劣化させて、閉鎖的なものにしてしまっている私たちなのだということを感じさせられました。できない私がそのままにして認められる安心があるからこそ、できない私を自身が安心して受け容れられる。そこからうまれる学びの喜びが、私を伸びやかに成長させてくれる。そして私一人だったら歩みを止めたくなるとき、信頼するみんながいることが前に進む勇気と希望となる。友の温かさが私を勇気づけてくれるのだ、と。

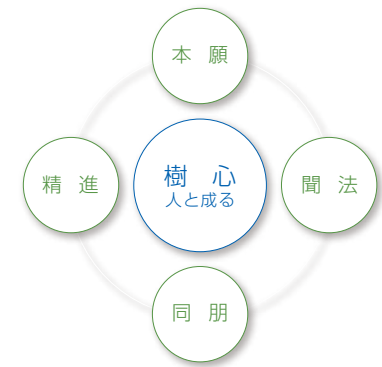
私たちの多くが、学びの経験の中で纏いつかせてしまった負の意識、わからないこと、できないことは恥ずかしいことだという意識に捕らえられてしまっています。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という古訓の罪深さを思わずにはいられません。尋ねることを臆してわからないままに済ませます。その臆する心を打破すべく掲げられる古訓なのでしょうが、いつかの訊くと、訊かぬ一生の二つは、どちらも恥の領域内のこととしてあります。そのことが学びを萎縮させ、その反動として、できることやわかることが自らを驕慢にさせているように私には思えるのです。この古訓を是と受け取っている不明を突きつけられた思いです。

知らないこと、できないことは、私を現在に閉ざす障碍ではありません。私の未来を開く出発点です。稚(いとけな)い児がまさにそうであるように。私たちはいつからできないこと、まちがうこと、知らないことを、評価の目でしか見られなくなったのでしょうか。願わくば大谷での学びとさまざまな活動が、安心と信頼に満ちて一人ひとりをrevitalize(=再活性化)する時と場になることを。そして個を超えて、クラス・学年の枠を超えて、生徒と教職員という垣根を超えて、広く力強く拡がっていくことをと念ぜずにはいられません。



飯山 等
学校長

学校理念



樹心 ～人と成る～

TO BE HUMAN

「今、ここ」が安心していられる「時間・空間」となる。
それが「樹心(=心を樹てる)」ということ。

本願 いのちを大切にする

「今、生きているわたし」が大切に思えるとき、いのちは輝き、優しくたくましくなります。

聞法 自分を発見する

だれとも比較しなくてもよい新しい自分を発見することで、生きる勇気がわいてきます。

同朋 友と共に歩む

閉じた心を開き、わかり合おうとつとめるとき、友の鼓動が聞こえ、人の痛みがわかります。

精進 本気でやりとげる

失敗をおそれず、自分をごまかすことなく本気になれば、世界が変わります。

校訓

真理を尊重せよ 義務を果遂せよ
相互に敬愛せよ 不断に精進せよ